

令和 5 年度 【 学園研究費助成金 < B > 】 研究成果報告書

学部名 国際コミュニケーション学部

フリガナ カゲヤマホナミ
氏 名 影山穂波

研究期間 令和 5 年度

研究課題名 在外邦人の「居住空間」とジェンダー
～フランスの日本人ネットワークと日本語補習校に注目して～

研究組織

	氏 名	学 部	職 位
研究代表者	影山穂波	国際コミュニケーション学部	教授

1. 本研究開始の背景や目的等 (200 字～300 字程度で記述)

本研究の目的は、日本企業の海外進出にともない現地で生活を営む日本人を中心とした居住空間を、ジェンダー視点から明らかにすることであった。西ヨーロッパは、現在なお日本企業の海外進出の重要な拠点である。本研究対象地域であるアルザス地方には、1980 年代以降リコーやメニコンなど多くの日系企業が事業を展開している。2001 年にはコルマールを拠点にアルザス欧州日本学研究所が設立され、経済だけではなく文化面でも日本との交流もすすめている。そこで本研究では日本在住者の空間の中でも、特に子供たちの日本語教育の場である補習授業校に注目し、現地在住日本人の居住空間をジェンダー視点で検討した。

2. 研究の推進方策 (300 字程度で記述)

在外日本人のネットワークのひとつとして補習授業校に注目し、アルザスで開校しているストラスブールとコルマールに調査を依頼した。ストラスブール補習授業校は説明会に参加することで話を聞いた。コルマールでは、保護者が中心となった活動に参加することができ、学校の状況や課題を聞くことができた。いずれの学校でも、生徒は帰国を前提とした子供たちよりも、国際結婚で生まれた 2 重国籍を持つ子供たちが大半を占めるようになっていた。そこで、こうした子供たちに注目した日本語教育を進めているパリ南補習校とスイスのバーゼル日本語学校についても調査を進めた。

3. 研究成果の概要 (600字～800字程度で記述)

アルザス地方は、1980年代以降日系企業が進出した。現地の日本人にとって、日本語の教育機関となっているのが補習授業校である。ストラスブールでは1986年に設立し、現在80人弱在籍している。コルマルは1993年に設立し、25人程度在籍している。土曜日の午前中に、ストラスブールでは国語を、コルマルでは国語と算数の授業がある。日本政府からの認定を受けた機関であるため、教科書は無料となり援助を受けることができる。運営は保護者のボランティアにより進められている。活動では母親の参加が多いが、父親の参加も少なくない。保護者による送迎は義務であり、車で子供を送迎する役割が父親である例も多かった。設立当時は駐在員の子供たちの割合が高く、日本に帰ることを前提とした教育機関であったが、現在では国際結婚をして生まれた子供たちが大半を占めている。このことは、補習授業校での教育のあり方に対する課題となっている。補習授業校での教育内容は文科省の定める指導要領に沿ったものであり、子どもたちの学年に応じた教科書を利用する。帰国予定者と在住者とは日本語に対して求めている者は異なるのである。そこで、国の認定する補習授業校ではなく、日本をルーツとするからこそ日本語を学ぶ意義を認識したうえで、子どもたちの能力と要望に沿った教育を行うという継承語教育を進めている学校の教員に調査を行った。フランス語が第一言語となっている子供たちも、ルーツである日本語ができることが家族にとって重要であると考えられる例は多い。補習授業校では多くの宿題をこなさきれず挫折する子も少なくないが、子どもに応じた教育で、日本語を学び続ける機会を持ち続ける大切さを感じているという。ただし、継承語教育では日本政府からの援助はない。そのため、外務省や海外子女教育振興財団などに協力を求めるための活動が始められていた。国際結婚や海外永住者も増加する中で、今後さらに考えなければならない課題であろう。

4. キーワード (本研究のキーワードを1項目以上8項目以内で記載)

①補習授業校	②コルマル	③ジェンダー	④居住空間
⑤継承語	⑥	⑦	⑧

5. 研究成果及び今後の展望 (公開した研究成果、今後の研究成果公開予定・方法等について記載すること。既に公開したものについては次の通り記載すること。著書は、著者名、書名、頁数、発行年月日、出版社名を記載。論文は、著書名、題名、掲載誌名、発行年、巻・号・頁を記載。学会発表は発表者名、発表標題、学会名、発表年月日を記載。著者名、発表者名が多い場合には主な者を記載し、他〇名等で省略可。発表数が多い場合には代表的なもののみ数件を記載。)

梶山女学園大学研究論集に投稿する予定である。